

# 鎌田遺跡 (かまたいせき)

所在地：つくばみらい市南太田 278-2 ほか  
調査期間：令和2年12月1日～令和4年3月31日  
調査面積：4,818 m<sup>2</sup>  
委託者：茨城県土浦土木事務所  
調査原因：主要地方道取手つくば線道路新設事業  
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団 (つくばみらい東事務所)  
TEL: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

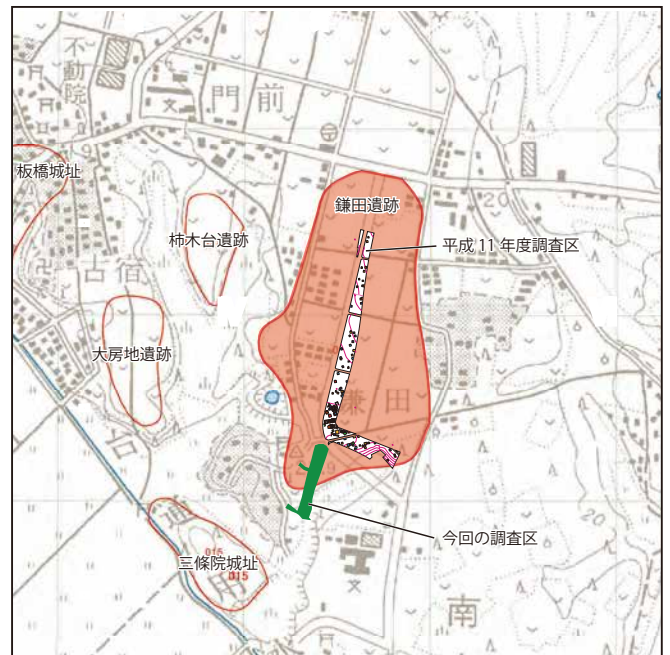
## 遺跡の概要

鎌田遺跡は、つくばみらい市東部、中通川左岸の台地上に立地しています。平成11年度に当財団が調査を行い、竪穴住居跡91棟や掘立柱建物跡26棟などを確認し、奈良・平安時代を中心とする集落跡であることが明らかになりました。今回の調査区は遺跡の南部に位置しています。これまでの調査で、前回同様に奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などからなる集落跡を確認したほか、縄文時代の竪穴住居跡や土坑も多数確認しています。

## 調査の成果

これまでに確認した竪穴住居跡は、奈良・平安時代のものが中心です。奈良時代初め頃の竪穴住居跡では、床面に一般的に見られる柱穴の他に、壁下にも柱穴をもち南側に張出部が設けられた特徴的な構造を確認しました。この建物は柱穴の建て替えや壁の拡張がなされていると考えられ、古代の役人のベルトを飾る腰帯具や、帯を通して刀を吊るすための足金物などが出土したことも注目されます。また、掘立柱建物跡を13棟確認しました。調査区中央部の南北に長い建物がまとまっているところでは、重なり合った状態で柱穴を確認しました。建物の軸方向が揃うように複数回建て替えられたと考えられます。

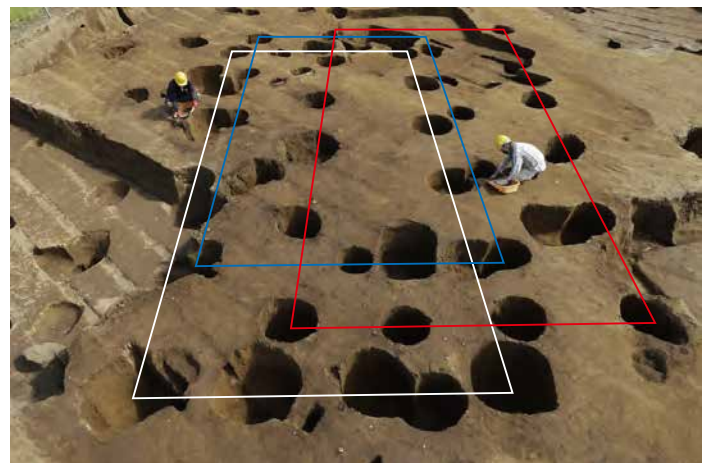
出土遺物では、鉄製品が多い点が特徴で、なかでも武器である鉄鏃は鎌や斧、鋤先などの農工具よりも数多く出土しています。集中する掘立柱建物跡や腰帯具の出土などと合わせて、古代の鎌田遺跡の性格を考えるうえで貴重な資料となります。



鎌田遺跡の範囲と調査区 (国土地理院地図に加筆)



調査の状況 (南から撮影)



建て替えが行われた掘立柱建物跡 (北から撮影)

特徴的な遺構・遺物



黄：縄文時代 緑：古墳時代  
 白：奈良時代 青：平安時代 赤：掘立柱建物跡



出土した銅製品や鉄製品



①壁柱穴や張出部をもつ竪穴住居跡（第110号竪穴住居跡）



②一辺8mを超える大型の竪穴住居跡（第122号竪穴住居跡）



④軸を揃えて集中する掘立柱建物（赤→青→白の順で建て替え）



③竪穴住居跡から出土した鋤先（第118号竪穴住居跡）